



市HP内掲載記事へ

年齢	R2.8末(前月比)
0歳～14歳	1,295人(-4)
15歳～64歳	5,762人(-12)
65歳～	3,050人(+9)
合計	10,107人(-7)

大宮町の人口

## 特集

# 大宮学園

## 大宮第一小学校「秋の運動会」

大宮第一小学校では今年度「ONE TEAM」チームみんなで協力し、415の星をかがやかせよう！を児童会スローガンに「秋の運動会」が開催されました。415名の児童たちは、6チームに分かれ優勝を目指して3種目を競いました。午前中のみの開催や、競技種目の減少など、例年と異なる運動会となりましたが、児童たちは「今年だけの特別な運動会」と捉え、6年生が中心となり準備を進めてこられました。今年度の児童会種目は「大玉運び」の1種目が選ばれました。これは4人で息を合わせて1つの大玉を運び、タイムを競います。「身体の密を避けながらも、心は密に取り組めるように」との思いで選ばれたようです。



各チーム主将による選手宣誓



「大玉運び」の様子

## 大宮南小学校

## 「旧五十河小学校歌進呈式」

大宮南小学校（以下 南小）では、旧五十河小学校（昭和55年3月末廃校）の校歌が録音されたCDの進呈式が執り行われました。これは、京丹後文化のまちづくり実行委員会による、廃校となった学校の校歌を市内の子どもたちの歌声でよみがえらせ、CDとして保存し、地域の大切な歴史として次の世代に引き継ぐことを目的とした事業で、令和元年度より実施されています。今回の式典には、南小全校児童、旧五十河小学校区民（代表 久住区長）が参加され、同実行委員会からCDの進呈がなされました。南小での進呈物の活用方法については今後、学校内で検討される予定です。



児童会長・副会長が代表して受贈



全校児童が出席

## 大宮中学校合唱祭

大宮中学校では『前進！次の舞台へ』を令和2年度の生徒会スローガンに設定し、生徒会活動に取り組んでおられます。このスローガンには「昨年度の生徒会スローガンである『出発』から1段階レベルアップし、新たな一歩を踏み出せるよう」という思いが込められています。このスローガンを掲げ、大宮中学校合唱祭が開催されました。開催にあたり以前とは異なる新しい形式が続々と用いられました。先生・生徒からは「今できることを最大限取り組むことができた」「開催できると感謝」と言った声がありました。今後も大宮中学校の新しい取り組みに期待が持たれます。



1年生学年合唱

# まんぐるわ三重・森本のロゴマークが完成！

三重・森本区民で構成され、女性  
が中心となって活動されているグ  
ループ『まんぐるわ三重・森本』の  
ロゴマークが完成しました。設立4  
年目を迎え、1人でも多くの方に  
活動をPRし、その結果地域活性  
化に繋がるようにと、グループ内  
で協議を重ね、9月29日に完成し  
ました。

代表の田崎由美子さんにロゴマ  
ークに込めた思いを尋ねると「い  
つも笑顔で楽しく輪(和)を大切  
に、人や地域とどんどん繋がって  
いきたい。新しい芽から花が咲き、  
実が出来る様に、地域やまんぐる  
わ三重・森本が明るい未来に向か  
って広がりながら前に進んで行く  
ように！ロゴマークを通して広が

りながら前に進んで行くよう  
に！ロゴマークを通して夢は  
大きく広がっています。」  
と話して  
いました。



完成したロゴマーク

## 丸井 洋市さん 「三重・森本里力再生協議会 農法委員長」

### 「ゲンゴロウ郷の米」は龍大と地域のつなぎ役

「三重・森本里力再生協議会  
は、故郷を近隣の地域と協力し  
て盛り上げていこうという思い  
の熱いメンバーの集まりです」  
と話すのは、丸井洋市さんです。

丸井さんは高校卒業と同時に機  
械加工を学び、鉄工所に就職、45  
歳で子どもの頃からの夢であつ  
たバス運転士になり、現在は農  
業に従事されているという異色  
のキャリアを持ち、同協議会内  
農法委員会委員長としても活躍  
されています。今回丸井さんに  
は①三重・森本地域について②

①三重・森本地域について（良いとこ  
ろ、悪いところ）

地域の皆さんは、昔からの文化を守  
りつつも新しい事にも理解を示して  
くださり、龍谷大学との連携活動にも  
協力して頂いています。有難いことで  
す。地域の良いところは、当地域は丹  
後半島松島の盆地に有り、近くには生  
活を支える環境も有り、近年高速道路  
のICができ、移動が非常に楽になり  
ました。悪いところは自分には見当た  
りません。人の好き、立地の良さは恵  
まれていると思います。

②「ゲンゴロウ郷の米」について

・販売までの経緯

『ゲンゴロウ郷の米』（以下 ゲンゴ  
ロウ米）は、龍谷大学生が地域内の圃  
場で実施した生物調査にて、絶滅危惧  
種である2種類のゲンゴロウを発見  
しました。これは、環境に優しい米作  
りができている証拠であり、この事実

を何か地域活性化に活かせないかと  
いうことで、ゲンゴロウ米の販売をす  
ることになりました。試行錯誤して作  
った地域の財産とも言える米が、丹後  
王国で販売できた時は感動しました。

ゲンゴロウ米は、三重・森本地域の活  
力であり、龍大生と地域のつなぎ役だ  
と思っています。

・農法委員会として

農法委員会の仕事は、地域米の共通  
の作り方を確立し、地域のブランド米  
として三重・森本区内の農家さんに作  
ってもらえるようにすること、販路を  
拡大すること、その結果、地域活性化  
を進めていくことだと思います。しか  
し、生産者としての経験はあつて  
も、営業、販売については誰も経  
験が無く、今後の課題です。

★丸井委員長、ありがとうございます  
ました。今後の活躍も期待して  
います！



『ゲンゴ  
ロウ郷の  
米』につ  
いてとい  
う2点に  
ついて思  
いを伺い  
ました。